

平成23年度  
(平成22年度分)

# 事務事業評価票

C 定型・維持管理型

No.

1002016

## I 事業の概要

通常評価

### I-1 事業の概要

事務事業名	資源ごみ拠点回収（紙パック）		所管局部課等	環境政策局循環型社会推進部 まち美化推進課
	ホーム・シアトルズ <a href="http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000016745.html">http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000016745.html</a>		(連絡先)	213-4960
			(評価票作成者)	まち美化推進課長 鈴木隆志
22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性 現状のまま継続	24予算額 (千円)	事務事業の内容 資源の有効利用とごみの減量を図るため、小学校や商業施設等に回収拠点を設けて飲料用紙パック（500ml以上）を回収し、再資源化を行っている。
34,356	35,063		12,616	
業務運営方法	<input type="checkbox"/> 直営	委託(補助)先の名称, 委託(補助)の内容		
	<input checked="" type="checkbox"/> 部分委託	(委託先)		
	<input type="checkbox"/> 部分補助等	(財)京都市環境事業協会		
	<input type="checkbox"/> 全部委託	(内容)		
	<input type="checkbox"/> 全部補助等	回収業務		
実施根拠 (法令, 条例, 規則, 要綱等)	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律 京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020）			事務事業の性格
				<input type="checkbox"/> 義務的的事业 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的的事业
				会計区分
				<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計

### I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
			①	事業費 (千円)	29,729	34,399	34,356
		需用費	59	209	364	365	
	①'	委託料 回収, 売却	29,670	34,190	33,992	34,698	12,616
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①) (%)	99.8%	99.4%	98.9%	99.0%	100.0%
	③	人件費 (24年度は見込) (千円)	4,643	5,046	4,836	22,406	22,406
		職員(課長級) (人)	0.12	0.06	0.06	0.06	0.06
		職員(課長補佐級, 係長級) (人)	0.06	0.09	0.09	0.09	0.09
		職員(係員) (人)	0.30	0.41	0.40	0.40	0.40
		嘱託職員等人件費 (千円)				17,570	17,570
	④	年間経費 (①+③) (千円)	34,372	39,445	39,192	57,469	35,022
	⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外) (千円)	1,714	1,140	1,398	1,422	1,276
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)					
		その他 (売却収入) (千円)	1,714	1,140	1,398	1,422	1,276
	⑥	京都市年間負担経費 (④-⑤) (千円)	32,657	38,305	37,794	56,047	33,746
	⑦	受益者負担率 (受益者負担分 ÷ ④) (%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

平成23年度  
(平成22年度分)

II 評価結果

事業名 資源ごみ拠点回収（紙パック）

II-2 業績評価（II-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略）

A 効率性	No.	区 分	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	回収量	t	104	95	87
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円	34,372	39,445	39,192
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	330,499	415,208	450,483
	④	単位当たり経費変動率			+25.6%	+8.5%
分 析	(コスト変動の理由等) 平成21年度と比べ、平成22年度の活動実績が減少したため効率性が悪くなった。 民間での回収ルートが増加し、回収量が減少したため、単位当たり経費が増加した。また、紙パックの販売量自体が全国的に減少傾向にあることも影響している。（平成21年度は前年比約2%減）			評価	かなり悪くなった	悪くなった
	<調査の有無> <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 該当しない			<調査方法>		<調査時期>
B 市民満足度	(調査結果、現状分析等) 民間の回収ルートも確立しており、特に不満の声はない。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 関連 <input type="checkbox"/> 一般	<現状分析、今後の方針等> ごみの減量、資源の有効利用の効果がある。				

平成23年度の実施状況

各エコまちステーションが、積極的に各種地域団体と協議し、臨時回収を実施しているが、紙パック販売数量の減少傾向にともない、平成23年12月末の回収量は51,100kg（前年比▲19,280kg）である。

III 今後の方向性

(今後の方向性の理由及び具体的な内容)	
現状のまま継続	紙パックを使用した商品の販売数量は減少傾向だが、ごみ減量、資源の有効利用のため、イベントでの臨時回収による啓発や資源物回収マップ等により事業、及び回収拠点の周知を継続する。「資源物回収拠点の設置」事業に統合